News & Topics まちのわだい

市のホットなニュースを紹介！

その他の話題はこちら▶

4/19 新緑の恵那を駆け抜ける恵那峡ハーフマラソン

恵那スケート場を発着点に、恵那峡ハーフマラソンを開催。全国各地からエントリーした総勢2,445人のランナーが、初夏を思わせる陽気の中、新緑の恵那を駆け抜けました。

4/1 まなびルームの運用を開始

恵那南地区5カ所に地域教育拠点として「まなびルーム」を整備。子どもから大人まで無料で利用できます。

4/5 市民の安心安全を守る消防団辞令交付式

市消防団辞令交付式で、新入団員などが辞令を受けました。本年度は、817人の団員が市民の安心安全を守ります。

4/4-5 春を満喫 恵那峡さくらまつり

恵那峡公園（大井町）で恵那峡さくらまつりを開催。約3,000人が訪れ、思い思いに桜やさまざまなブースを楽しみました。

4/4-7 きねしだれ桃園ナイトツアー

きねしだれ桃園（串原）をライトアップして、予約制のナイトツアーを開催。来場者は、幻想的な風景を堪能しました。

4/27 学校発！生ごみを資源に

恵那特別支援学校の中学部が、給食の食べ残しを堆肥に変える取り組みを開始。生ごみコンポストを設置しました。

4/29 ポーランドでの交流を報告

青少年交流事業として、3月26日～30日にポーランドを訪問した学生二人が、現地での交流を報告しました。

輝く 恵那人

255人目

中野方町　第2区

柘植　昭男（あきお）さん（71歳）

□プロフィル

中野方生まれ、中野方育ちで、とにかく中野方が大好き。会社員の時、「愛・地球博」会場の情報通信設備のプロジェクトマネージャーを務めた。現在は、中野方地域協議会の会長をはじめ、移住定住委員会の委員長や望郷の森キャンプ場を運営する会の会長など、地域で複数の役を担う。最近は、野菜作りを勉強中。

◀田の神様ともしび祭り

▲提灯に毛筆で文字入れをする柘植さん

町を思う心が棚田にともる

第二の人生で、ふるさとへ恩返し

夕暮れの坂折棚田のあぜ道に、ろうそくの灯が一つ、また一つともる。約千の灯が水田に映り、辺りは幻想的な雰囲気に包まれる。中野方町の「田の神様ともしび祭り」は、田植えの終了を田の神様に報告し、豊作を願う行事だ。

祭りの実行委員長を務めるのが柘植昭男さん。同町で生まれ育ち、高校卒業後に就職。町を離れたが、30歳の時に家族と共にUターン。「中野方で暮らし続けたい」という強い思いから、東京や大阪への転勤の話を断り、約30年間、名古屋への通勤を続けた。早朝に家を出て深夜に帰宅する生活で、地域の活動に関わる余裕はなかったという。「大好きな中野方に貢献したい」と思い続け、65歳で退職後、中野方地域協議会の会長に就任し、7年目。地域行事やまちづくりに力を注いでいる。

コロナ禍後、祭りの再開にあたり、NPO主催だった祭りを町全体の行事として取り組もうと話し合い、実行委員会が立ち上がった。昨年は、祭りに彩りを添えるため手持ち提灯を販売し、柘植さんの発案で毛筆による文字入れを初めて実施。来場者の要望に応えて名前なども書き入れ、それぞれの提灯を手に棚田を歩く人々の姿が印象的だった。本年はチラシの題字に柘植さんの書を採用し、提灯行列など昨年とは異なる企画も練る。

また、同町の新たな魅力を発信しようと「笠置山巨石群」のパンフレットを製作。調査プロジェクトを立ち上げ、本年3月に完成させた。「会社員時代、何もないところから企画し、実行してきた経験が今に生きている」と語る。

本年の祭りは6月6日㈯に開催。「年に一度、たった2時間だけの美しく幻想的な風景を、多くの方に見に来てほしい。そして町民が次も頑張ろうと思えて、町が元気になっていけば」と願う柘植さんの表情は、中野方への愛にあふれ、これからも優しく棚田を照らす。